

特集 はまぼう樹林

下田まち遺産担当・金子レポート

初夏に咲くハマボウの花と吉佐美ボードウォーク

※本誌ではハマボウとカタカタ表記しておりますが、下田まち遺産ではひらがなで表記しております。

カニもいっぱい、海の散歩道を歩こう！



※P9の地図にて場所をご確認ください

大賀茂川河口には市指定天然記念物で、下田まち遺産となっているはまぼう樹林の群落が見られます。植生域は、河口の防潮堤上流 300～400m の所まで帯状をなしており、数百株のはまぼうが河岸林を形成しています。そのはまぼう樹林と並行してボードウォーク（平成8年頃完成）があり、地域の方が散歩をしている姿を見かけます。自動車を通る心配もないので、自然を満喫しながらゆっくり歩けるのが特徴です。また、ボードウォークの下流と上流には橋があり、ぐるっと一周できるのでとても良い散歩コースで、1周約 987m（ボードウォークの延長は、左岸 308.5m、右岸 411.4m）あります（左図参照）。

ハマボウに詳しい山田昌彦さんに聞きました。

ハマボウって どんな植物ですか？

ハマボウは日本にしかない!?

ハマボウは、淡水と塩水が混ざる「汽水(きすい)」といわれる泥炭地に生育しており、鹿児島などの南方にいくとマングローブと混合して植生しています。

ハマボウの分布域の特色は、種子を海流により運ぶことができるため、種子の散布距離が陸上植物より広いことです。ハマボウの仲間であるオオハマボウは、インド洋から太平洋にかけて広く分布しています。ハマボウの分布域は、韓国の済州島と奄美大島から神奈川県三浦半島まで分布しています。そのため、ほとんどが日本にのみ生育していると考えてよいようです。

はまぼうは希少性の高い植物

ハマボウは、根付きやすいため人の手で移植して、例えば庭先でも簡単に育つものです。そのため、青野川の護岸整備の時に川沿いのハマボウを青野川の歩道沿いや河津や東伊豆などに移植し、それが今でも生育している経緯があります。そのため、個体数は多いのですが、河川改修



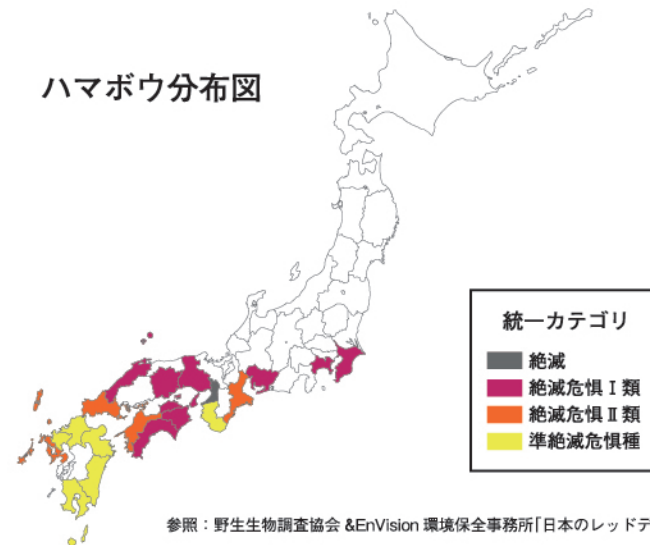
話していただいた山田昌彦さん(上)とレポート担当の金子(下)

などにより群落は減少しています。絶滅種、絶滅危惧種にしている府県は、1府 19 県であります。大阪府は、絶滅したとされています(左下地図参照)。また、静岡県は、絶滅危惧種には指定していないとのこと。

山田さんからのメッセージ

希少の植物であるので、いつまでも保護されて守られていればと思う。また、ボードウォークがあることで、両側にハマボウを見渡しながら歩くことができ、ハマボウへの親しみが違ってくる感じます。

ハマボウ分布図



参照：野生生物調査協会 & EnVision 環境保全事務所「日本のレッドデータ」

話を聞いた人
山田昌彦さん



下田市白浜出身、現在東伊豆町在住。元高校教諭で下田南高・下田北高校の教頭を歴任した。専門は、生物学。東伊豆町の細野高原の植生などについて、調査研究し、そのガイドも行っている。また、下田市の市民講座講師も務めている。

何種類見つけられますか？

ハマボウの生育土壌は、潮の干満がある湿泥地帯であるため、カニが住みやすい環境となっていて、下田市内でも他に類を見ないほど多くのカニを見ることができます。河津川や稲生沢川でも取られ食用とされるモクスガニや、よく知られたベンケイガニやアカテガニ、クロベンケイガニ以外にもハマガニやアシハラガニ、時にはめずらしいシオマネキの種類や、高級食材として知られるノギリガザミなども見られたことがあります。動く大きなものに敏感ですぐに逃げてしまうため、カニを観察するのは難しく双眼鏡が必需品。用意ができない場合は石になったつもりで、気づかれないようにゆっくり近づかなければなりません。



園児たちがカニ釣り

ここは、下田幼稚園児が、カニ釣りの場所として 15 年前から訪れる場所です。

今年は、6 月の遠足にて 5 歳児 19 名で行き、その際にカニを 1 人 5、6 匹はとったとのこと。また、一番多くとった園児は 14 匹もとったそうです。竿と糸、スルメイカで釣る道具ができ手軽に楽しめます。



カニ釣りをする下田幼稚園のみなさん